(日刊) 明治四十年十一月[illegible]日第三種郵便物認可

京城新報

●新聞料 [illegible]
●廣告料 [illegible]
●陰曆 十一月二日
發行兼編輯人 [illegible]
印刷人 山下英[illegible]
京城西署西小門通
發行所 京城新報社
電話六六三

論説

殖民及び殖民地財政（上）

本多精一

[illegible]若くは移民に於て多くの經驗を有し[illegible]殖民國家に在りては[illegible]るも殖民的民族としての責任能力さへも殆論の問題としては討究の餘地なきに非ざるも即今の時勢は最早大和民族に向て單に其の必要を唱ふるを以て足れりとし爲す者に非ず況んや其の殖民的能力に關する研究をや韓國に滿洲に殖民政策は既に論ずべからざる立國の方針と爲り北米合衆國に若くは英國加奈陀に日本移民の排斥相踵ぐの事實は偶々以て我が殖民的方針の根底を强からしめ殖民政策の必要を大ならしむる所以たらずんばあらず米大陸に於ける移民問題は外交上遂に如何の解決を見るべきや今に倘一個の疑問に屬し謂れ無き排日運動に對する外交上の成功は國民として當然政府に要望せざる可らざる所なるも由來移民問題の實質は半ば人種問題にして半ば經濟問題に因由するの結果、縱ひ個々の排日的暴動若くは學童排斥事件に關しては時々の救濟を求め得べしとするも若くは又事實に於ける移民制限の手段に依りて以て一時の小康を期待し得べしとするも米大陸に於ける移民問題は恐らく永久繼續して常に彼我の官民を惱ますべきものと觀察せざるを得ず隨ふて我が移民政策は自から發展の限度無きこと能はず、移民の奬勵に依りて以て國家經濟上の利益を求めんことは以て今後の政策と爲すに足らず世間往々我が海外移民の本國送金を以て直ちに移民の直接利益と認め外國貿易上輸入超過に原因する正貨の流出は日本移民の本國送金に依りて幾分か相殺せらるゝの事實を以て移民の國家的利益を計算せんとする者無きに非ざるも是れ唯其の半面を見たる偏頗の觀察に止まり移民の送金を以て國家經濟上移民の功徳を頌せんとするは國に産業なく出づるに殖民地なき野蠻民族の陋思想を襲踏したる謬見のみ國に産業の發達あれば移民は必ずしも移民たるを要せず內國の産業に從事して國の生産を進め其の對外輸出を加へ依りて以て移民の本國送金若くは其れ以上の資本を內國に吸收するを得べく出るに殖民地あり行くに相當の便宜あらば移民として外國の產業に服し外國の資本に役せらるゝ同一の勤勞は依りて以て日本民族の發展に貢献するを得べく孰れの點より觀察するも吾國在來の移民觀は餘りに移民の功徳を過大視し時に或は誤解したるの嫌無き能はず其の永久に在來の移民政策に依賴すること能はざる固より論なし況や我が移民問題は米大陸に於て業に已に永久的難解の性質を帶べる困難に逢着せるに於てをや左なきだに國勢發展上必要の結果たる滿韓殖民の方針は此に於てか益々其の根底を强ふせざるを得ず殖民政策の必要は此に於てか益々多きを加へざるを得ざる也。

殖民政策の成功と失敗とは一は殖民的民族としての先天的性質能力の如何に關するものありと雖も其の最も重大なる影響を及ぼすべき原因は一に殖民の便否、二に殖民地の民政、三に殖民地の財政と爲すは古より殖民政策に失敗し若くは成功せる各國々民の歴史上に證明する所なり殖民地の便否に關する諸問題中吾人の先づ第一に置かんと欲する所のものは本國々民をして殖民地の生活事情を始とし渡航の手續方法に至るまで十分に之を熟知せしむるの方針を以て特に一種の紹介周旋を目的とする機關を公設せんとするに在り獨逸が昨年其の殖民局を擴張して新に殖民省を設ける如きは今日に於て吾等の希望する所に非ざるも既に殖民政策の喚緊なるものある以上は國民に對して殖民思想を鼓吹し、鼓吹されたる思想の發動して殖民地に生を求めんとする者に對して殖民地各般の事情を紹介し兼て又渡航の便宜を謀るべき信用ある機關の公設無かる可らず殖民の要は家庭の移民に在り其の妻子眷族を故國に殘して若干年の間單身外國に移住し以て本國に送金しつゝあるものと同一視すること能はず、英國民の殖民に成功せるは其の到る處幸福なる且つ健全なる家庭を移植したればなり、別言すれば到る處に小英國を建設したればなり、民族の膨脹帝國主義の發展是に於てか始めて之を庶幾するを得べし、則ち家庭の移殖は殖民政策成功の要訣なると同時に、之を移殖せんとする國民に取ては其の注意考量を要するものゝ、移民に比して固より同日の論に非ず冒險の餘地は移民に大にして殖民に取ては極めて小に寧ろ其の皆無なるを以て殖民政策の理想と爲さゞるを得ず、冒險の餘地をして皆無ならしめんが爲には殖民地に於ける各種の生活事情より渡航に關する細目に至るまで豫じめ國民をして之を周知せしめ又其の聞く所に信頼せしむるの手段方法無かる可らず殖民機關の公設を要するもの之が爲なり現に臺灣の如き既に久しく帝國の領土に屬せるものと雖も概して言へば臺灣に關する一般國民の智識は未だ甚だ不完全を免れず家庭を擧げて臺灣に移殖せんと欲する者あるも移殖後の方針手段に關して信賴すべき報道を得んが爲には勘からざる勞費を投ずるも尙且つ不滿足を感ぜずんばあらず況や韓國に對してをや、滿洲樺太に對してをや。

一年雜記

統監府の人物評判（五）

對星樓山人

斯く人材は謳歌すべく英雄は崇拜すべし、斯くまで統監府の人物評判に力めたる我儕は、●●●更らに一歩を統監の周圍に就て一種の人物圈を指して評判すべくある。

伊藤公の小間遣とボイ君に就ては我儕全く不案內であるが、其外に於ては各種の能不能を排置してある、例令へば男爵高崎君は公の秘書役であつて、又內室の監督者であるさうである、男爵は浮世を通過した男で華族樣には珍らしく平民主義である、東京邊では粋人の一人と申して居るが、京城では公の眞正なる秘書官は此男爵君である●●●●●

頭本君のコレアンプレッスに於ける能技は誰れでも許すが、半島の故都に於て世界的に統監の御用を勉めらるゝも亦た因果である、內田君の自衞團に於ける黑龍會式の●●●政略である、小山技師の醫術に於ける、矢士君の詩文に於ける、何れも帝室技藝委員には及ばぬが似た職務である。

秘書官としては古谷君國分君あり、其一は新聞記者より榮轉し、其一は朝鮮語より昇進し、俱に好個の秘書官である、英雄の秘書官には大抵の人材では勉まらんものとか聞くが左樣であろふか。

其專問的技能よりせば本多氏の農事に於ける、平賀氏の工藝に於ける梅氏の法律に於ける佐藤氏の病院に於ける、若しくは鐵道經營の主脳として大屋氏の管理局長たる、交通機關の長として池田氏の通信局長たる、以上の專問家に就ては、格別人物評論する程に其人を目撃せぬ、寧ろ斯る專問家か統監政治に貢献したる功績は多大であるかも知れぬ、惜しむらくは、新渡戸博士の●●●●●如き高尚なる理想家は伊藤公の如き英雄を●●●崇拜せぬことである。

今や此一圓の外に於て副統監として曾根氏來り、參與官として一段の新人材を迎ふるに至れり、諸君を評判すべき時機に達したなれば何か數ページの評判記を重ねて手記するであろふ。

北老爺嶺山脈大森林及雪中縱斷記（二）

黑衣仙

斯る大森林の中を一間乃至一間半の大道が東西南北に走つてゐる、無論大道と云つたところで、老松古檜の枝や梢が相交つて恰度穹窿の如に成つてゐる下の路で有るから、この道に沿うて森林住者の小部落を形成する森林中の空地は停車場で、道路は立木の隧道の中を通つてゐる如なもので有る道路が無いどころか前に云ふ通り立派な大道が幾條も有るし、部落が無いどころか五十戸餘も有る瀟洒な大旬子の如な立派な驛邑も有る。

さて旅行も歸路となつて官街に着いたのが昨年の十一月二十八日、終日チラホラと雪が降つて寒さは一入、先づ寬如と盆湯に入つて買物なども濟ませ、荒増用意も出來た所で黃酒に醉を買ふてぐつすりと寢込み、明くれば二十九日午前六時出發豫定の處ろ駄馬が却々に揃はず彼是と時を移して午後三時五分、馬も出來、荷物の宰領も整うた所で、愈々南に蹊を回らして北老爺嶺山脈大森林縱斷の途に就いた譯である。

同勢は自分等が十八人、馬夫が六人、駄馬が八頭、犬二匹――二匹の中金砂河から引具した小狗を金砂と名け、官街から引張つて來た黑犬をくろと名けた、くろは未だ人馴れてゐないので繩で曳擦る如にして連れ金砂は狎れてはゐるけれど歩けぬから之は荷物と一緒に馬の脊に附けた、この一隊が一列に續くと隨分の長さになる。

官街の町端から凡そ二千米突ばかり進むと輝發河（又の名吉林土們河）は厚さ二尺五寸以上の堅氷に鎖されて眞白う、天に於ける銀河を宛がらに橫はつて居る、河の幅は眼の見當で凡そ百五十米突、對岸は見渡す所ろ氷と雪の野山で人の住まう氣配もない、譬へば輝發河といふ大きな渠を一重に此未開の地域を、人の世から別つた如なものである、行手の方は北老爺嶺山脈の大森林。恰度兩側に墻壁を結つたかの如に小山が連つてゐて、堀割を通る時のやうな心地のする谷地は、薄ら暗い立木の隧道の中に導く。

▲犬でも寂しいと見ゐる

數日前から晴れつゞきで氣溫が降つてゐる所へ氷雪を拂つて來る風が勁いので、――向ひ風――面は切れる如である、輝發河の氷上を歩して、其支流法別河を左右に縫つて行くこと、道は何處迄も南若くは西南に通じて、三十淸里ばかり歩けば大盤屯といふ十五軒ばかりの小な村に着く、いとゞ日が短い所へ出發に時を費したので、一時間經つか經たぬ間に已う日が暮れかゝる、地圖は持つてゐるし案內はある、路は一本道で行く先々も分つてゐれば、今宵は恰度十四日で月も有る、冬の夜路も却々興が有るものだ、日の暮が凡そ午後四時二十五分、日が暮れたかと思ふと右手の小高い山の端の林から物の氣配して、寒月が印し出した如に出で來る、人家は彼方に一軒、此方に一軒寂しく立つてゐて、枯草や枯木が黑う物怪の影のやうに見ゐて、月ばかりは氷の砂の塊見族樣に寒い光りを万遍なく雪と氷の世界に投げてゐる、十八人の影は幾日も前から降り積つて堅くなつてゐる雪の上に凝て着いて、踏占める度にぎし／＼と幽喑締のやうな嫌な音がする、其背丈が鬪ねるばかりで凄寥の氣が犇々と胸に應ゑて來る駄馬と人とは遙かに隔つて人は啞默つて歩く、無理無態に引連られた黑は曳擦られながら時々立止つて、怨めし想に官街の方を詠める、犬でも寂しいと見ゐる。道の半分、殘りの十五淸里は夜路を踏んで此夜は大盤屯の村端に宿つた。

木浦通信

特置員

▲藥錢通用禁止問題に就ては過日申上候が近者又當地商業會議所より其筋に宛て請願書を差出し候が何れは時勢上已むを得ざる問題に候へば近々の內に何とか解決を見る事と存候

▲先般來より各滊船會社の運賃値上げを耳にし現に仁川群山等は之が値上げを實行致居候が當港に於ても去月廿八日付を以て各荷主に對し左の如く値上げの通知を發し候

自木浦港至各港運賃表

品名	單位	神阪・關門・長崎	釜山・仁川・群山	鎭南浦	元山	安東縣	大連	東京	橫濱
穀物	百石	哭圓	三圓	四圓	吉	五	吾	五	吉
實棉	一個	公錢	—	—	—	—	—	—	—
繰棉	一個	公錢	—	—	—	—	—	—	—
建物	一個	哭錢	—	—	—	—	—	—	—
牛皮	百斤	古錢	—	—	—	—	—	圭錢	—
棉	一俵	二〇錢	—	—	—	一〇錢	—	一圓三錢	—
棉實	一袋	三錢	—	—	—	—	—	—	—
韓錢	一個	四〇錢	—	—	—	—	—	—	—

▲去月廿六日木浦農會臨時會を同會事務所樓上に開會せしが來會者は役員の外公用にて來木せられし平渡副理事官佐藤技師鈴木技手市原屬長濱補佐官の諸氏臨席し同會議案討議の末土地證明の件及農業者の意見に對し諸種有益なる談話の交換をなしたりしが兩者間の意思疏通には大なる効果有之しやに聞き及び候

十一月中の輸出入額

總稅務司廳調査

稅關	輸出額	輸入額	輸出入合計
仁川	吾二、五六六	二、二〇〇、三〇三	二、五四二、九六九
釜山	五三三、一三三	九二三、〇六六	一、四五六、一九九
元山	一三五、七一三	三五二、〇八二	四八七、七九五
鎭南浦	[illegible]	[illegible]	[illegible]
木浦	[illegible]	[illegible]	[illegible]
群山	[illegible]	[illegible]	[illegible]
馬山浦	[illegible]	[illegible]	[illegible]
城津	[illegible]	[illegible]	[illegible]
新義州	[illegible]	[illegible]	[illegible]
京城	[illegible]	[illegible]	[illegible]
計	一、八三三、〇七九	四、四八八、三三五	六、三二〇、[illegible]
金	[illegible]	[illegible]	[illegible]
銀	[illegible]	[illegible]	[illegible]

右之內輸出入品の重なるものを擧ぐれば左の如し

輸入之部

品名	輸入額	一月以降累計
鐵軌及鐵道材料	五六四、三三八	二、二七八、六〇三
シーチング	三五七、一二四	四、三二一、九一六
生金巾	三五二、三七九	一、七六四、六六〇
紡績糸	三〇七、〇三三	一、三四〇、一四三
晒金巾	二〇九、九三六	一、二四〇、六六六
絹反物	一九八、五九九	一、一六六、九三五
白木綿	一七一、八四四	一、三〇三、八二六
煙草	一三四、一九三	九九七、六六四
酒及サムシュ	一三三、六六九	六四一、九二五
石油	一二三、〇八二	八〇八、三五〇
木材	一一五、六八三	一、八八六、九九七
石炭及コークス	一一三、一〇八	六七九、二四八
衣服及小間物	一〇四、九六八	七六〇、八二五
包裝用繩叺	九三、六六九	五八八、八一五
模樣付金巾	八七、三五六	一五〇、九六六
食料品	六四、九二〇	一四八、三一九
砂糖	五六、三二〇	七三五、〇二七
鐵類（釘を除く）	五六、三三六	五一七、三二四
鑛山用品	四六、四六八	一九八、九二四
打綿	四三、四〇〇	二三七、九二三
マッチ	四〇、六〇九	三〇五、七一一
建築材料	三五、六二一	一、〇五八、一五〇
天笠木綿	三三、九七五	三二〇、五七八
紙	三三、三六四	三六六、七三五
染料	三三、三二九	一七〇、二〇五

輸出之部

品名	輸出額	一月以降累計
豆及莢豆	八八五、三三六	三、一二九、六九二
米	五五五、九四二	六、七〇九、一七七
小麥	九八、六一七	三一九、二二三
畜類	五一、四五三	[illegible]
牛皮	五〇、九七七	[illegible]
乾鰮肥料魚	三七、七三三	四二一、一〇〇

輸入重要品商況（一）

仁川商業會議所調

●●●（一）金巾類　金巾類は英金巾和金巾とも二月上旬までは先づ可なりの商狀なれども中旬以後賣行頓んに鈍れり、二月に入りては前月同樣賣行捗々しからず其內舊正月を迎へ市況一時沈靜に陷りしが三月となりては各地の解氷とともに出穀一時に多きを加へ韓人の購買力を增進したると共に本品の賣れ行きも亦稍回復せんとするに至れり尋て四月となりては漸次好況に傾きたり五月中は一般の市況不振の爲め賣行鈍く相場は保合の姿なりしが六月に入りては農繁季となりたることゝて地方よりの人出少く一層不振に陷れり七月となりては例年夏季閑散の時季なるに加ふるに大火及び民擾等の影響を受け商況不振となり取引も捗々しからず本品の如きも賣行鈍く相場は稍低落を告げたり八月となるも依然市況閑散を持續し捗々しき賣口立たず相場は保合の姿なりしが九月に入りて愈季節に向ひたると韓盆に近づきたるとにて市況も漸く活氣を呈し來れるも未だ捗々しき取引なく相場は保合のまゝ月を越せり

無我献身の一老僕

▲仕ふる事四十五年　ヒーロー、サンライス、乃至オールド、ゴールド、ピンヘットなどいふ紙卷煙草が續々內地で製造せられ又外國から輸入せられて來て一時に喫煙界の流行を左右しかけた明治二十三四年頃から五六年にかけた間の在來の腰下げ煙草入商の恐慌と言たら異常に見るも氣の毒な有樣であつた、殊に實業も大なる打擊を蒙つたのが當地では[illegible]橋の煙草入屋[illegible]の老舖屋である、中でも此風潮に酷く[illegible]が出來ず家產一時に倒潰して一家今にも分散の際どい目に眞先かけて逢つたのが[illegible]橋の吟馬堂だ、ソレも道理此家は代々女戶主が相續する例で當時の戶主は[illegible]に三[illegible]右も左も判らぬいたいけ盛りの上にたの[illegible]親は先年死亡し唯一人の七十過た祖母が居るばかり不幸續きの上に[illegible]業の不振は此家の滅亡を一層に早め今は[illegible]非なく此老舖を他に讓ろうと親族間の協議一決してアワヤその價踏まで爲ぜやうとなつた時に幼少の時分から同家に仕へて居た番頭加賀熊吉だけが頭を振て承知せない今老舖を賣たところが二束三文何の足しにもならぬソレに祖先以來數代連綿として續いて來た吟馬堂を私が勤めて居る代になつて他人の手に渡すのは如何にも殘念至極それよりは一層商賣に勉强して製品を吟味した上薄利一方に得意先を攫むればヨシ他の同業者が廢業するにしたところで此家一軒位が立て行ぬといふ事はありますまいと折入ていふ言葉は動かすべくもない、これには親族等も我を折て一先づ熊吉の言ふが儘にしたが爾來ツノ勤勉と實直は果して次第に得意と信用を增して來て卷煙は益々流行の度を高めて來たけれども吟馬堂は一向撓まず商賣益々繁昌となつた、これ全く熊吉が忘我獻身の結果に外ならぬ當人今も猶吟馬堂にあるが十一歲始めて同家の丁稚となつてより年を數ふる事實に四十五年三代の女主人に仕へて主家を盤石の泰きに置く近頃珍らしい勤直な人である

▲仕ふる事四十八年　京都室町中立賣下る處に安部喜助といふ天保生れの老人がある此人勤王家として名高い三國幽眠氏の家僕となつて一年ばかり奉公した時に主人幽眠氏は彼の戊午の難で捕縛されて入牢の身の上となつた家には若年の嗣子一毅氏といふが有るが肝腎の主人が居なくなつた爲にこれを守り育てる事が出來ない喜助は一方ならず氣に病だが如何ともする事が出來ぬかゝる時には神を賴むより外に道はないと寒天に雪を冒して醍醐、愛宕、北野等の神社佛閣に參籠し水垢離を取て主人の無事を祈つた至誠は天に通じたものか翌年十月幽眠氏は許されて出獄の身となつたが入牢中の勞れは出牢の後に一時に身を襲ふて哀れや間もなく病歿した重ね／＼の不幸に世の常の者であれば可加減に逃出す處を喜助は更に厭ふ樣子がなく爾來は一毅氏を助けて亡き主人と同じく奉仕する事四十八年此程は又隱居家をさへも建てゝ茲に其人を住はせ一意猶主人の爲可れとのみ祈つて居る爾の熊吉といひ此喜助といひ均しく我を忘れて一身を主人に獻ずる義心に些の厚薄はない近頃稀に聞く快心の話ではないか（以上共に奬風會表彰者）

東京電報

▲青木大使召還さる

青木駐米大使は米國人の氣受好からず桑港事件其他万端に就き失敗を重ねたる爲め召還せられたるが後任は伊太利駐劄高平大使轉任すべしと(五日發)

▲清政府の謝罪

清國政府は間島に於ける無謀の處置に就き我政府に陳謝せりとの公電ありたり

▲鐵道改良費の削除

統監府鐵道管理局 建設改良費一千萬圓は(四年計畫)閣議に於て削除され既定年度割七百四十五万圓に決定せり

▲海陸運者の行賞

日本郵船會社其他海運業者船業鐵工業者千四十六人に對する行賞あり內松方幸次郞三井八郞次郞の兩氏は勳三等に叙せられ旭日中綬章を授けられたり

▲日人口入業許可

桑港警務局は日本人口入業を許可せりとの公電ありたり(以上四日發)

各地電報

▲北韓暴徒戰死者(四日午後北靑發)

暴徒の使役者の云ふ所によれば賊の銃を携へたる者約七十名附和隨行者十名首魁は甲山のジャドージュン嚴方洞のリンドージ同村のヲインタッ龍院の宋といふ者高岐嶺のチョウセン達水洞の呂といふ者にてリンドージは戰死し何首魁らしきベーデン洞の朴鏞洛も戰死せりと答へり

雜報

皇太子の御出立

既報の如く韓國皇太子には日本御遊學の爲め昨朝九時昌德宮御出門罷朝橋を渡り鐘路通を經て南大門停車場に着御し太師伊藤公に擁せられ九時卅五分の仁川行宮廷列車に搭乘せられ愈々御發程の途に就かせられたり、此日朝天肌を刺せしも曉光麗々として氣朗かに恰かも小春日和の如かりき、先づ御發車二時間前頃よりは京城尋常高等小學校生徒及韓國各學校の生徒等各々旌旗を翻へして停車場附近に整列し沿道又奉送の群衆を以て埋むるに至りぬ斯くて既定の時刻迫り發々中空に漲る煙火の音の勇ましく響き渡るや警護の騎兵前後を擁し車駕肅々として御來着あらせられたるが太子には御氣色殊の外麗はしく早くも御着日の程を待つもの〻如く見受け奉りぬ、陪從員は伊藤公は勿論曾根副統監長谷川軍司令官李宮內大臣宋農商工部大臣趙陪從武官長村田少將岩崎少將高東宮大夫古谷國分兩秘書官小山技師等にして其他[illegible]大使の一行として完興君永宣君特進官[illegible]司長李秘書監長李秘書課長鄭書記官金陪從武官嚴數官尹秘書官等なるが又停車場迄の奉送者は日韓官民の重なるもの無慮數百名許り

なり掲て鑾々御發車の時刻となるや日韓の軍樂隊は一齊に劉喨の音の下に奉送の樂を奏し又軍隊よりは禮砲數發を放たれたるが其の盛觀は非常なるものにして恰かも我皇太子殿下巡行の時と毫も異る所なかりき

韓太子仁川御發艦 光熙

十一時十分の定刻に至るや玉車は徐々として仁川驛に着せられぬ

皇太子には陸軍少尉の服を召させられ伊藤統監御手を取り御守申上げ供奉の人々と共に玉車を離れさせられプラットホームに於て奉迎者に一々擧手の禮あり玉顏殊に麗しく敷詰めたる花莚の上をしづ／＼假便殿に充てられたる待合室に入らせられ少時御休憩の後信夫理事官先導にて伊藤太師に御手を取らせ御徒歩にて稅關埠頭より御召艇デシー號に御便乘あらせられ統監曾禰副統監長谷川軍司令官李宮內大臣宋農相 趙法相村田少將岩崎少將高東宮大夫古谷國分兩秘書官小山技師陪乘申上げ第二艇凱旋丸第三艇辰丸には夫れ／＼隨員便乘し十一時三十分滊笛輕く鳴りて第一先導艇先づ棧橋を離れて御召艇デシー號は靑疊の如く靜かなる海上に小さき銀波を漂はして進航せり此時埠頭堵の如き日韓奉送者は一齊に萬歲を連呼し艇影小さく見ゆるまで絶へず御召艇の漸く滿州艦に近くや軍艦宗谷は一時に砲門を開きて二十一發の皇禮砲を放ち殷々轟々の間に太子には伊藤太師に助けられて滿州艦に御移乘あらせられ御召艇まで奉送せる韓皇族大官等一同と卓を圍んで御告別の玉杯を取らせられたりかくて滿洲艦は同時十分宗谷艦を先導に拔錨黑煙を後に仁川を出發したり

▲奉送迎

奉迎送者中從六位勳六等以上の者文武高等官民長商業會議所會頭民會議員商業會議所公共團体代表者新聞記者等はプラットホームに愛國婦人會員小學校生徒は停車場廣場に其他公私奉迎者は海岸御道筋に停立して奉迎送申上たり

▲韓民側奉迎送 韓國側に於ては小學校生徒は日韓兩國旗を手にし又仁川附近住民は老若男女打混り海岸に打並び何れも國旗を手にして指揮者の發聲にて萬歲を唱へたるが中には百歲の媼翁が太子の御英姿を目の當り拜し有難き涙に咽び居るものも受けられたり

●素砂の送迎 素砂驛にては富平郡石川面地方の韓民約五百名一進會員三百名京城光武小學校生徒九十八名日本人二十名各自日韓兩國旗を携へて來集し滊車の十時四十分に通過するや万歲を三呼し滊車は徐行して其の敬禮を受けたり

昨日の奉送者

昨日は韓國空前の御慶事たる皇太子日本留學の御出發の當日と伊藤統監の歸朝とにて韓國側に於ては一般に業を休み老幼男女舉て奉送し日韓兩國民は何れも兩國旗を交叉

拔揚、御旅立の幸多かれかしと祝し奉りたり奉送者は日韓高等官及び勳六等以上は停車場に各官公私立學校生徒及び漢城府民團各團体は何れも漢城府より贈りし旭日太極兩章の小旗を携へ敦化門前より南大門停車場構外に至る道路の兩側に整列し最も靜肅に奉送したり道路は淸潔に掃除行屆き巡査巡檢を五歩宛に配置し嚴重に警戒したれは些の混雜を見ず十万餘の奉送者は微風に靡く兩國の國旗と共に滿面和氣靄々たりし樣にて其熱誠の狀溢れて最と嬉しかりし

●韓國側の休業 昨日は韓國皇太子日本留學として出發せられたるを以て之を奉送する爲め各官衙會社學校は一般に休業したりと云ふ

●韓太子學友 今回韓皇太子日本留學の學友を命せられたる趙大鎬徐丙甲の兩學友は昨日皇太子と共に出發したり

●英國の植民省 英植民省は今回三部に分たれたり而して其第一部は専ら自治植民地に關する事件を扱ひ第二部は王領植民地に關する政務を總攬し第三部は植民地に於ける銀行、貨幣鑄造、人事法律等に關する總務を扱ふものなりと云ふ

●間島天寶礦山 間島天寶礦山の採掘は一時中止せられ居りたるところ先般有名なる中野次郎氏外數名の日淸人合同して採礦會社を起し同礦山に對する礦業を再興し將來の見込十分立居る矢先如何なる故か淸國政府より今回突然其筋へ向て採礦中止の抗議を申込來れる由なり、因に中野氏は右に付數日前急行東上したり

●宮內新官制に就て 宮內府新官制發更に付宮內大臣李允用は小宮次官に向て數次交渉するところありしも同次官は嚴として李大臣の不當なる交渉を蹴けたりと云

●舊宮內官吏 新官制發布後罷免となりたる宮內官吏は中々多數なるが之等舊官吏は時日經過の後再び舊巢に歸ることを得るものゝ如く信じ目下夫々運動中なりと云ふ

李宮相演說要領

李宮相は三日午後一時より宮內府高等官一同を惇德殿に召集して大要左の訓示演說を爲せり

本職は近く日本に渡航せんとす偶々新官制の發布に伴ひ日韓人共同して執務することなりたるに付諸君が將來に處すべき宮內官吏としての心得方に就き茲に諸君を集めて訓示演說を試みんとす

諸君宮內官吏は政治に干與すべからずと言ふ迄も莫く宮內府も帝國官府の一部分には相違なしと雖宮中と府中とは自ら類別なかる可らず故に我宮內府官吏は相戒めて政治に干與し意見を吐露し議論を上下す可からず苟も斯かる失措あらんには諸君が日常心得居るべき服務規律に依て止むなく制裁を加へざるべからざるの羽目に陷るべければ諸君は誠心誠意我帝室に對し各自其職務に盡されんことを望で措かず斯の如く興隆に我帝室の爲めに我邦の爲めに諸君は當然貢獻すべき其前提としては勢い今日に於ける我國勢に就き最も愼重に思索せざるべからざる次第なるが試に今日の國勢如何を見よ有体に謂はしめば大小百事列強と相伍して遜色なからしむるには我邦が獨自一個にて之を燮理するは到底容易の業に非らざるを以て日韓新協約を締結せし結果として今回日本より有爲の人士を招聘して諸君と相伍班して宮內府の行政其他一般改良を計らんとす一言にして蔽へば今回宮內府に入りし日本人諸君は我宮內官吏を指導啓迪する爲めに謂はゞ敎師として招聘せられしなり例へば暗夜に提灯を持てる道案者たるが如し諸君は須らく此親切なる案內者に跟隨して蹟かず迷はず怪我せずして步過せざるべからず苟も然らずして煌々たる提灯の光を離れ各自に前途を急がば立ろに暗夜を辿るの困難に遭ひ硯面蹉躓し果ては思掛なき罠に陷るを覺悟すべき結果を生ずべきを以て諸君は徒らに此行途を誤らず若し不明の事あらば飽迄も指導者に質だして百事を處理せざるべからず本日列席の諸君及本職をして過去を追憶せしめよ現に本職の如きは大なる錯誤者の一人たるを免かれず幵は勿論無意識に改良進步に對して針路を誤りしなるも今日より考ふれば豈に多少の感慨なからんや序に日本人諸君に一言せん諸君中には我邦の爲めに盡瘁すべく今回殊更に渡韓せられしもあらん久しき以前より我邦に在留せられしもあらんが何れにしても先覺者たる以上は諸君は我官吏を指導せらるべきは言を俟たされども多くの事と長き時間には或は諸君の好誼に辜負して何程導いても導かれずと思はるゝ者もあることが無きとも限らざらんが此塲合と雖諸君は短氣を起さず遺憾なく此等の指導に腐心せられたし而して指導啓迪の好結果を諸君と共に相祝福するの機會を速に捉へんことを囑望せざるを得ず又た一方我等韓國宮內官吏と雖も虛心坦懷に指導者の云爲を解釋し和衷協同して事務の進步を努めたらんには其間何等扞格あるべき筈なし蓋し之れ理數當然の歸着に非ずや

由來我邦の慣習として動もすれば慣習に遠ひし新事例の性質を研究せず依て生ずる利害をも打算せずしてこんな馬鹿な事がと漫然最初より高を括つて一指をも染めざる傾向あり之は畢竟古代の慣習にのみ拘泥して維新改良の主旨を蔑視せし弊習にてあるなれば諸君は此忠なる謬想を去り若し其間揷むべき疑義あらんには次官若くは課長に質議して改革の根本義を會得せられたし

諸君能く此意を体し帝室の爲めに帝國の爲めに盡瘁せられんことを望む

尙ほ宮相は渡日中大小事務は閔署理大臣及次官に協議又は伺出て事務の遲滯するなきを期すべしと附言せり

大邱財政顧問支部の都舍音

大邱財政顧問支部に於ては度支部より驛屯土の收租事務につき訓令を受けし以來鋭意之が準備に着手し客月廿三日管內各分離員を召集し酒井財務官は大体の方針を指示し尙二十八日には大邱支部に於て任命したる都舍音十五名を支部廳舍內に召集して稅務監觀察府事務官參書官稅務官郡守等列席の上稅務員囑託の辭令を交付し李稅務監及酒井財務官は各一場の訓示演說を爲したるが都舍音の擔當區域は左の如し

大邱郡 金伸一 吳聖來 洪南吉 白仲敬
淸道郡 崔武用 玄風郡 張斗化
漆谷郡 金李年 河陽郡 洪南吉
慶山郡 朴敬直 慈仁郡 崔善弘
義城郡 李敬玉 比安郡 金天錫
永川郡 金在沐 義興郡 徐鳳綺
軍威郡 孫孝源

●度支部測量技手見習試驗の成績 度支部測量技手見習募集は去月廿五日第一回試驗を西大門の獨立館に於て執行したり志願者總數三百一名の內不參者四十二名にして受驗者二百五十九名なりし試驗科目は數學作文、日語譯文にして合格者百十名を出したり更に廿九日度支部內にて第二回試驗執行したるが試驗科目は數學及日語にして合格者百五十名なり尙合格者は去る三日より技手見習として度支部の實務練習に從事す

●平壤煉炭 平壤鑛務所製造煉炭の見本若干を本社へ寄送せられたるを以て本社は之を試用せしに火力強く永持してストーブ用火鉢用等に尤も妙なり但し同炭が商品として有するところの價値は追て同所の發表を望む

奉化方面の慘狀

慶尙北道奉化邑は去月二十日再度の賊襲に遭ひ全邑灰燼に歸し依然慘憺たる狀況にして人民の歸來者なく又家屋を築造するものなし畢竟賊徒の襲來を恐るゝと時期酷寒の候に向ひ建築の期にあらざるとに基くものゝ如し郡守は時局の初めより避難して未だ歸郡せず郡主も亦他出して居所判明せず獨り首書記鄭相洪は終始一貫郡務に鞅掌せしも目下病臥中にあり隨て郡衙の事務は全く中絶の狀況にして避難民の救護上困難尠なからず順興邑も亦去月中旬再度の襲擊を受け燒失民家百餘に及び慘狀奉化に異ならず郡守以下は燒殘の郡衙一隅にありて専ら被難民の救護警戒に努めつゝあるも順興邑は奉化に異なり襲擊當時穀類家財等は殆ど燒却掠奪せられ其困難名狀すべからずされど郡守以下の獻身的救護は大ひに其效果の見るべきものあり軍隊は目下各方面に亘り一意賊徒の掃蕩に努めつゝあれば遠からず民心平穩なるを得べしといふ

暴徒の作戰

松禾分署員等暴徒偵察のため長淵邑に向ひ約二百名の暴徒と戰鬪四時間に亘り偵察隊は彈丸盡きて已むを得ず長淵を引き揚げ殷栗憲兵分遣所に援助を請ひ櫻井伍長以下八名と共に再び長淵に到り戰鬪三時間の後遂に敵をして東南の二方面に逃走せしめたることは既報せし處なるが當日に於ける暴徒の策戰なるものを聞くに先づ黃海道載寧邑附近の見取圖を作り附記して曰く此邑を夜襲するに先ち女裝者數人をして潛かに小路より入らしめ邑內紛亂の時短兵小刄を以て刺し殺すべし又四人を以て隱身潛かに入城せしめ交戰の時街家に放火し以て敵兵の所在を曉らば恐らくは利を得るならん毎日一人宛を隊より出して第五中隊將所の護衛に當らしめ其の旨將所に報告すべし尙軍卒をして爭端勞苦の弊なからしめよ

暴徒日本漁場を襲ふ

去月十三日黃海道長淵郡沿岸白翎島に賊徒襲來せりと元來同島には三重縣人二十名住居を搆へ漁業に從事せしが同日午後八時賊徒三十名支那ジャンクに乘じ海州方面より來りたりとの報ありしより倉惶家具を集め小船に積み南方約六里を隔つる小靑島(日本人數十餘名あり)に向て避難す彼等が同島を離るゝや島內には燈火點々相往來し盛に日本人を索むるもの〻如し避難者は翌十四日午後三時僅かに小靑島に着するや仁川稅關所屬櫻井丸碇泊中なりしを以て事情を述べ保護を請ひ十九日共に白翎島に歸航せるに暴徒等は住宅に殘留せし數點の物品を燒燬し十五日朝海州方面に去りしことなるが彼等は里長李某を捕へ日本人を逃走せしめたりと稱し同人を亂打したる上金八十圓を强奪し去しといふ尙櫻井丸は廿二日鎭南浦に到着し避難者一同を上陸せしめたり

暴徒本願寺を襲ふ

去る二日午後十二時高山郡西下面本願寺出張所に日本人布敎師の不在中暴徒約二十名來襲し家具及び所持品悉皆を燒却してミナン方面に引き揚げたるより高山分派所員は其行衛偵察中なるが當地守備隊よりも斥候を派遣せり

●前間通譯官の歸任 前間通譯官はかねて北韓出張中の處去る三日晩歸任せり尙同通譯官は國分書記官不在中人事課長を命せられたり加藤前顧問は北韓視察中なりしが昨夜歸京したり尙氏は數日の後歸國の豫定なりと

●農相代理 農商工部大臣宋秉畯氏は皇太子日本留學に付隨行し昨日出發したり不在中法部大臣趙重應氏農相代理を命せらる

●熊谷民長下仁 熊谷京城民團長は皇太子及び伊藤統監の歸朝を送る爲め昨日午前九時卅分南大門發にて下仁即日歸京せり

●中田書記長 木浦商業會議所中田書記長は豫て滿洲地方巡遊中なりしが數日前歸浦せり同氏の滿洲視察錄は近々發表せらるべしと云ふ

●憲兵計手の進級 憲兵隊附二等計手茂呂十六郞氏は一等計手に同本部附軍曹石井吉三郞氏は曹長に何れも進級せり

韓官任命

一昨四日左の通り任命ありたり

命臨時署理宮內府大臣事務 侍從院卿 閔丙奭
命臨時署理農商工部大臣事務 法部大臣 趙重應

宮殿伺候者

一昨日の昌德宮伺候者は百五十二人にして內男百十七、女三十五人にして其重なるものは完興君李載冕、農相宋秉畯法部大臣趙重應宮內府大臣李允用陪從武官長趙東潤東宮大夫高羲敬警視副官具然壽警視總監丸山重俊主殿院卿李謙濟總理大臣秘書官上村正己主殿院理事黃鎭國等にして德壽宮は李載覺義親王妃宋農相李宮相を初めとし百〇五人にして內男九十一、女十四人なりし

●東盛和破綻と對淸貿易 淸國營口に於ける東盛和破綻事件の影響に就ては安東縣及び淸韓國境には著しき反響なかりしも我京阪に於ける北淸貿易商等は之が爲め多少の影響を受けたるもの〻如く貨物の輸出を躊躇するものあり又た安東縣方面にある正金銀行、第一銀行の支店の如き貨出を中止したると米國に於ける恐慌に依り金貨の流出したると銀價下落の影響とは對淸貿易上に少からざる打擊を與へたるが如しと

●女學校設立協議 京城女學校々則編纂のことに就ては曾て記せし如くなるが熊谷民長は來る七日午後一時より敎育に關係あるもの及び在京の有志者を民團役所に招き女學校設立の件に付き意見を陳じ且つ其設立に付て相談會を開く由なり

●韓紙商の組合組織 京城內外の韓人紙商等は今回組合を組織し從來紙の賣買に付き地方より出京せし者を道路に擁し賣買を紹介する所謂周旋屋なるものありて紙屋は此等紹介屋に向て二分の口錢を贈り來りしが右は一般に弊害を及ぼすべきものなりとして之を廢することに決し一分宛與ふることゝし若し之に違背したるものあるときは百圓の罰金を徵することに決したりと云ふ

●節季と登記 京城理事廳に於ける登記取扱は例年節季に近くに從ひ其件數を增加し來りしが本年も最早餘日なく金融の逼迫し來りし爲め登記取扱件數は前月迄平均九十乃至百件ありしが本月に入りては著しく增加し來り當局者は大に繁忙を極めつゝありと云ふ

▲治外法權▼

此頃韓人間に愛讀さるゝ書物は埃及亡國史と烈女チャンダアークの傳記と波蘭史とソウして瑞士史等である余輩の推測するところによれば前三書を讀む人連は何れも慷慨悲憤の輩で瑞士史を繙く連中は一寸ハイカツたヨボさんであろう▲ドンナ本を讀むも彼等の勝手である、亦書中の議論を受賣て溫突内を氣焰臭くするのも彼等の勝手である、併し空言空論丈では獨立もヘチマもアッタものではない、ヨボの有志家諸君落付て此の際大に一考を爲すべきである▲或學者の說によると今の世界に國家として立つには兵力、財力の點から少なくも人口七千万は持たねばならぬだソウである、而かるに僅か人口一千万許りの韓國が獨立など〻は思ひも寄らぬことである、ソウなると尹致昊君なぞは中々利つた人である、彼は已に物質見を捨てゝ長老敎會に入り神の王國を建つることに着手したソウである▲韓の御世子樣には一昨日を以て東京遊學の途に登られた、余輩は太子樣の學業成り賢明の君主となつて半島に君臨せらるゝまで太子大師の存命を切望するのである、何どなれば太子樣を賢明に仕立てる程の大役を公以外には引受ける勇氣のあるものは今の日本には無いからである▲余輩は太子樣が御修學中は埃及史や瑞士史なぞを繙くことは禁物であろうと思ふ、亦春告鳥や梅曆なぞを繙かれることも禁物であろうと思ふ、併し之は單に余輩の意見であつて萬事は大師殿と御相談が良かろうと思ふ。

「無限の熱血」を讀む　八[illegible]陵生

斯くて君は父に代り兄に代はりて熱心誠意貧兒の養育に怠りなかりしかば世間の同情は翕然として漸く愛に集まり開寮後幾干もなくして土地の有志及新聞社等より多大なる援助を得るに至りたるが、君は又愛に孤兒の養育の切なるを感じ直ちに之が實行に着手せしも如何んせん資無く力足らず、頗ぶる困難を極め一時は進退維谷の窮境に陷りたりしが自己が過去に於ける悲慘なる歴史に引き較べ、如何にしても支持繼續せんものと君自ら庖丁を取り薪炭を削り、孜々營々身を以て之が難局に當りたり、而して月を累ね日を積むに從つて幾分かの困難を免れ得るに至りたるを以て孤兒等の喜びは譬ふるに物なく、君を以て慈眼愛膓の父母の如く敬ひにき。時は維れ明治廿六年二月九日威儀堂々たる三人の紳士は突然君が見る影もなき貧兒寮の陋屋を訪ひしが、君は其の如何なる人ならんかと、いとも慇懃に座に延きしに何ぞ圖らん是は是れ北白川宮別當男爵高崎正風氏の一行にてあらんとは、蓋し之れ殿下が畏くも貧兒寮の事を聞し召され、之が實況視察の爲め態々此が一行を派せられしものにして、翌日君は恩命に依り、殿下に拜謁の榮を得たるが、其際忝くも金五十圓を下賜せられ且つ身に余る讚賞の辭を賜はりたり、君恐懼感激措く能はず、益々素志を貫徹し以て未來に於ける完全なる成蹟を擧げんとの念愈々昂まりぬ、而て又幾干もなくして畏くも　至尊の聖聽に達せしかば君は只に感涙に咽ぶのみなりき。苦心多年君が赤心誠意は漸く社會の認むる所となり、又寮務も頗ぶる多端を告ぐるに至りたるを以て君が親友某は寧ろ君と理想感情を同ふせる一婦人を娶らしめ以て高潔なる家庭を作らしめんと欲し切々君に說く所ありしが、君の心中又浮華輕躁なる當世的の婦人に非らずして、其の理想性情の能く予と一致すべき婦人たらんには敢て娶るも不可なしとの事なりしかば某は痛く喜び直ちに黃道吉日を擇びて飽託郡本山村坂梨雄藏氏の實妹を嫁はしたり。婦人名を乙亥と呼び、芳記時に十九、識勝れ、學深く、且つ穩雅貞淑の名夙に鄕黨に高し、思ふに此の婦人にして君が內助として又貧兒の慈母として事に當る、蓋し其の功績の良好にして又偉大なるは敢て言ふ迄もなき所なり、爾來琴瑟相和し、伉儷相合し、夫唱婦隨、相共に貧兒孤兒の養育に務めしかば着々として寮運隆盛の域に赴たり

趙重應の內訌

朴泳孝の腹心とも見せ掛け李完用の股肱とも自稱し宋秉畯の相棒とも見らるゝ二股膏藥的の法部大臣趙重應は啻に政治上に於ける二股役者のみにあらず閨房に於てもまた二股とは見られたり趙は歴とした一人の正妻のあるにも拘らず日本に在留中の韓メンを抱へありツ丈けの慨慷を盡したる末が例の趙流の筆法を以て正妻となすべき堅き約束をなして韓メンを喜はせたるが此韓メン仲々の辣腕者にて先般渡韓以來日々趙に向ひ正妻認證履行を迫りつゝあるも二股の趙は今にスだの蒟蒻のと宜い加減のことのみ云ひて當座を誤魔化さんとするを以て韓メンも躍起となりて或參謀の附智慧に依り近々對趙事件を持上げ大に活動をなす筈なりとのこと若し趙にして此約束を履行せざるに於ては自分は現內閣を覆すべしと大氣焔を吐きしと穴可恐可恐

强盗の見張番をした男

ドスを懷にして居る△怖くて逃げられぬ△三時間市中を引張られ△末永家に强盗の見張番△警察へ急訴した

さて材木の上に引据られた銀さんは愈々危なくなつて來たと心の中では慄ねて居ると男はれい實は今晚一仕事やらうと思ふがお前も手傳つて呉れと氣味惡るそーな顏でこういつた、銀さんはさア來たとギヨツトしたがまゝよと諦らめて、合點だ遣つ付けよう〳〵と承諾して、然らば行かうと男は立上り歌舞伎座橫の小路を通り拔けて築地通りに出てタイムス社の前を公園地裏通りに出て又も四邊を覗き步いたが丁度上月質店の前に來ると男は立止まつた實は今晚遣つ付けよーと思ふのは此家か、あの末永丈だ何に姑(畜犬)が居る、然しあの娘(土藏)はよさそーだ、から、……なぞゝ問答しつゝ同家の樣子を覗つて居つた、すると家の內から何やら人の聲が聞ねるので男は未だ起て居やがるそれおやー彼家にしようといふて銀さんを引張つて又步いた道を通つて末永の前に來た、テ男はれい銀さん、表から見ると立派な家だがこれおラッキリ惡い事をして金を儲けやがた野郞に違ひないこういふ奴を荒してやらなけや遣る所はありやしないよ、何に默つて持つて來るんぢやあるめいし、主人を叩き起して相談づくで貰つて來るに何の惡い事はあるものか、といふ銀さんは此詞を聽いてさては强盗かと此時初めて只の泥的でないのに氣が付いて一層恐氣立つて來たが男はどーしても離して呉れぬオイ若いの、れいら此れから此門を越して裏の二階から這入るから手前表に番をして呉れ、宜いか、人が來たら引ずりで步くのだぞ、と言ひ捨てゝ門の傍に行つたかと思ふと猿の如くヒラリと門の前の中に飛入つた、銀さんは此折に逃げようかとも思つたがいやまだ男は自分の氣をためして居るかも知れぬから油斷は出來ぬと思つて此邊をうろ〳〵して居ると又男はノコリと出て來て實は今お前をためしたのだがそれでお前の氣が判つた、賴むよといつて又も家の中に押へつた、かくして銀さんは男の家に入つたのを突止めて最早大丈夫と逃げ出し警察へ走り込んで今迄の出來事を詳しく申述べたが警察では唯酒興の上とのみ思つてか深くも聽いて呉れぬ然も銀さんは益々眞面目に訴へるので警官も捨てゝは置けずと當番巡査一名は末永家に出張したが何故か其儘戾つて來て何も變つた事はなかつたといふて居る、銀さんは思つた、へゝ怖かつたのだな……と其儘家に歸つて床についたが翌日になると果して强盗騷ぎが持上がつて自分は證人として呼出された唯前夜巡査さんが何故默つて歸つたのか判らねーと銀は憤慨して居つた、

●●●●●●●●巖山老師言行錄中の一節●●●●●●●●

或夜珍らしき大雪降り通し、其の翌日殊に又珍らしき快晴にて、旭のヌツと出でたる時、師傍にありし侍者に向ひ、マア考へて見い、世の中の人が少々ばかり人の爲めに仕事をするとか國家に盡したとか云ふと、あれも吾れの發明ぢや是れも己れの盡力ぢや、あの時自分がこうしたから今日はどうだの、やれ勳功、やれ名譽、いや八釜しい事だがナア、小天地とも云ふ人間にしては實に耻しい事ぢやないか、此の景色を見いゆうべの中に世界中へ何萬石とも分らぬ大雪を降らして置てさ、此の旭の姿はドウぢや、そんな仕事は一向覺へがないと云ふ體裁で素知らぬ顏して今朝は亦た世界を照しぬいて居る此れでなくちや大きな仕事は出來ぬ

仁川の狒々紳士

妻は姪を夫と姦せしめ夫は子息の妻を孕ませて墮胎せしむ△擬いて起る一家の悲劇△仁川紳士の面汚し

身には錦を纏ひ酒池肉林の贅を盡して居るものでも其腹の中頭の中を叩き割つて見れば色と慾との二道よりは他に何物をも求め得ぬとは當世紳士の氣質として世の中が八釜敷いふ所である、然り當今の所謂紳士なるものゝ裏面を窺へば世の道德義理人情の總てを犧牲としても此畜生道の色と慾とを遂げねば止まぬのである、吾人は世の所謂紳士なるものゝ品性下劣なる事彼の馬の足や太根俳優等に綴る事遠からざるを知るのである而して今●仁川紳士に之れを見るに世人の中徒らに京●仁間紳士を以てデモ紳士と罵するものあるも吾人は遙かに之れを信せぬ否吾人は**仁川紳士**の中以上の如き**不德背倫**の紳士は斷じて**居**らぬ事を信じて疑はぬが唯表題の如き人非人とも狒々とも譬へ樣のないデモ紳士が居る事を悲しむものである彼は實に紳士の假面を被つて世に跳梁し他紳士の仲間入りをして敢て恥つる所なく何益々狒々の獸慾を逞しうして居る吾人は彼れを目して**仁川紳士の面汚し**として將又**人道の大罪人**として此れより假藉なき筆誅を加ふる積りである。

●新聞社のボヤ　當地中署下漢洞なる帝國新聞社は一昨夜火を失して將さに大事に至んとせしが幸ひに早くも消し止め得たり

●門標を持ち去る　四日午後十時過朝鮮タイムス京城支局前の滿臺の上に小便を爲す者あるより同局詰の者が屋內よりこれを制止したるに彼は却つてこれを恨み惡口を放つた上に門標を取り外し持ち行きたり後ちに其の犯人は東京市平民目下旭町山口組雇人力車輓子伊藤鐵藏(三十)といへる者にて醉中なりしこと判明し警察署の說諭により大に後悔して其門標が泥土に汚れしよりこれを削りて持ち行き謝罪したりといふ

●去つた女房に未練な男　四日午後七時頃南大門通三丁目大工職濱田竹太郞方へ突然一人の男來りて其の傍にありし夜具を見るや此の品は自分の品なりとて引つ浚へて往かんとするより竹太郞は飛び出して暴行人來れりと本町警察署に急訴せしかば大津巡査直ちに出張し暴行者を引き連れ歸りて取調べしに此の者は長崎縣長崎市大浦鄕町の生れにてペンキ職を爲せる和泉寅治といへる者にて當京城に三四年間居住し本年の五六月頃浦鹽地方へ出稼をなし本年九月頃妻ヤスなる者を浦鹽に呼び寄せしにヤスは浦鹽に來るや否や離緣を要求し再び京城に歸りたり而して寅治は浦鹽より歸途當地に立ち寄りヤスが右竹次郞方に寄寓し居る由を聞き傳へ同家に至り見ればヤスは不在なれども夜具は見覺のある自分の所有品なる故に持ち歸らんとせしなりと答へ竹次郞はヤスが浦鹽へ行く際に旅費に窮し居る由にて金五圓にて買取りたるものなりといひ他に爭ふべき點なきを以て說諭の上歸されしが昨日またヤスは寅治が來りて暴行を爲すとて保護を願ひ出で寅治は又も呼出されて說諭せられたり

小說休揭

本日記事輻輳の爲め小說休揭す

●四十錢の泥棒　鹿兒島縣平民土方職下江金太郞(三十)は去月廿七日午前七時頃當地西署南大門外鑄石坊蓮池契銑洞木商田鍋元の所有圍柵なき材木置場に積みありし杉木二本を竊取し直に同所薪商南昌根方に持行き一本代價二十錢宛に賣却し酒代に費消したることを發覺し昨日警察署へ引致せらる

廣告

京城博覽會
カステーラ
栗羊羹 一等賞 金牌受領
和洋菓子 麵包製造所 寒水堂
京城本町四丁目 貞島本店
電話一四一番

熊平製造金庫
東京 竹内製金庫
大阪二重殿堂二回轉式 消火器
韓國販賣部 京城本町二丁目
熊平商店
電話六二四番

業務擴張廣告

謹啓各位愈々御清穆奉敬賀候降テ弊店儀開業日尚ホ淺キニ不拘諸彦ノ御引立ニ依リ日増隆盛ノ域ニ相進ミ候段難有奉鳴謝候就テハ今回東京ヨリ斯業ニ精通セル職工數名ヲ雇ヒ入レ洋服一式廉價ヲ旨トシ御注文ニ應シ可申候間多少ニ不拘御用命被仰付度奉願上候也

東京塚原支店
京城明治町一丁目
商原雄吉

毛布類 毛織物 春廣服 文官服 各仕立物 警官服 刀劔類 付屬品 鳶 東コート

開店廣告

神佛葬具請負 並ニ佛具販賣

御一報次第直ちに參上仕諸事御引請御調達可申候

京城旭町三丁目(十全病院隣)

右文字屋

化粧品小間物
京城本町四丁目
河村百貨號
電話七四六番

統監府 各官衙 御用
荷物荷造及運搬
本店 營業部
伊藤組
選 伊藤友松
本町三丁目 (電話七百三十二番) 明治町 (電話四十番)

内外書籍新聞雜誌
和洋雜貨日用品
文房具學校用品
大阪朝日新聞 一ヶ月四十五錢
同 毎日新聞 一ヶ月四十五錢
京城本町三丁目
大平田商店
(電話百十五番)

營業科目
活版活字鑄造
石版 銅版
コロタイプ
彫刻 諸印刷
諸帳簿
製本 装釘

本社 京城西署西小門内 (電話三二三番)
仁川出張所 仁川港海岸埋築地 (電話仁川二五五番)
東京出張所 東京市京橋區南鍋町一丁目十番地 (電話新橋三九六二番)

日韓圖書印刷株式會社

京城博覽會一等金牌受領
純良醬油

登録商標 登

釀造元 大阪府堺市 戸川源之祐
發賣元 韓國京城 戸川京城支店 (電話六二九番)

特約販賣店

京城本町二丁目 本田滿壽男 (電話四八番)
京城本町四丁目 前田喜聽 (電話一三七番)
京城明治町一丁目 唐川立造 (電話二六一番)
京城南大門通り 村田源次郎 (同二五三番)
水原 德永仙吉

一各種石炭大販賣

大ノ浦塊炭
豆田塊炭
大辻塊炭
ストーブ用トシテ右三種取寄セ貯炭罷在リ御希望ニ從ヒ多少ニ拘ハラズ迅速御屆ケ可申上候
三池粉炭
鍛冶用トシテ貯炭罷在リ多少ニ係ハラズ御用ニ應シ可申候
當社一手販賣炭左之通リ
三池、田川、伊田、山野、金田、豆田、津波、黑、藤棚本洞、大ノ浦五尺、大ノ浦三尺、笹原、滿ノ浦芳雄、大辻、白岩、柚木原、岸嶽等

三井物產合名會社
京城出張所 (電話二十六番)
仁川出張所 (電話六十三番)

本店 東京市日本橋區兜町
内地支店及出張所 大阪、京都、横濱、神戸、名古屋、四日市、仁川、兵庫、伏見、東京新大阪町
韓國支店及出張所 下關、釜山、元山、鎮南浦、木浦、群山、平壤、大邱、開城、城津、成興、馬山、義州
滿國出張所 安東縣

株式會社 第一銀行京城支店

電話番號
總支配人 營業部 一一番 市原盛宏
副支配人 當直用 同 一番 三島太郎
副支配人 國庫部 三三二番 竹山純平
國庫部 用度係 六二番
調査部長 分拆所 六二番 木村雄次
營業部長 六二番

銀行一般業務精々御便利に取扱申候
資本金 參百萬圓
積立及繰越金 七拾貳萬圓

京城南大門通 (電話四二〇)
株式會社 十八銀行京城支店

本店 長崎市築町
支店出張所 京城、仁川、木浦、群山、釜山、元山、龍山 韓國
大阪、佐世保、嚴原、五島、壹岐 日本
其他日本韓國樞要地及露領浦鹽に爲替取引先あり

貯蓄預金 一口金壹錢以上何程にても御預り申候 (利息日歩壹錢四厘)

長崎貯蓄銀行代理店 (十八銀行京城支店)

銀行一般の業務精々御便利に御取扱可申候
資本金三百万圓
本店 大阪市西區北堀江通五丁目
支店 釜山 仁川 平壤 鎮南浦 安東縣
株式會社 第五十八銀行京城支店 (電話五八番)

爲替取組先

内地 東海道	二十七ヶ所
山陽道	十三ヶ所
南海道	十五ヶ所
北陸道	七ヶ所
山陰道	三ヶ所
西海道	二十五ヶ所
東北道	二十八ヶ所
北海道	十三ヶ所
韓國	三ヶ所
清國	九ヶ所
	一ヶ所

電話貳貳八番
開通
一陸送運搬請負
今般電話開通致候に就ては親切叮嚀を旨として御便宜を計り精々勉強仕候間奮に倍し御用命の程伏て願上候
京城南大門外一丁目
姫野荷馬車部

會席御料理
並に仕出し大勉強仕候
京城本町座隣
電話六三〇番
蝶々

貴金屬類
印章彫刻
水晶篆刻
ゴム印製造
京城本町一丁目
竹下萬祥堂

日韓病院
一般患者之依頼に應す
京城新王城大漢門前
院長 橋本三男
醫員 吉田定見
同韓國軍醫 蔡永錫
藥劑師 濱口源太郎
會計 井口平治
隔日出張 龍山青木病院長 青木濟六
入院隨意

廣告
往診 午前
宅診 午後
但し急患者は隨時往診
入院隨意
京城貞洞大漢門前
蘇生病院

丁稚入用
但十才以上十五才迄
京城本町一丁目(郵便局前)
若林支店
(電話一四七番)

◉本月十六日光化門前に於て實地試驗を行ひ其偉大なる効を諸君に示せり
最新特許
チャンピオン消火器
合資會社 中央商會
本社 日本東京淺草區茅町
出張所 京城明治町二丁目

貸席待合
南山町一丁目
(植村病院前)
客室は清潔にして叮嚀なるは本店の特色に御座候
末乃花

大阪商船株式會社
仁川出帆廣告
切符發賣所
仁川支店 電話一二二番
仁川税關波止場出張所 電話二〇番
京城本町通リ角發賣所 電話五〇番
荷客扱店 廣田組 電話四二番

● 關門、神戸、大阪行 基隆丸 十二月十三日前十時出
● 大連、門司、横行 勝山丸 十二月 日正午出
● 關門、宇品、神戸、大阪行 馬山丸 十 月 日前十時出
咸鏡丸 十二月五日前十時出
● 群山、木浦、釜山、關門、神戸、大阪行 群山丸 十二月六日後五時出
馬山丸 十二月十一日後五時出
● 群山、木浦、馬山、釜山、關門、神戸、大阪行 千賀丸 十二月 日後五時出
筑後川丸 十二月九日後五時出
● 鎮南浦行 咸鏡丸 十二月 日後一時出
● 木浦、釜山、鹿兒(?)、郷之浦、長崎行 信濃川丸 十 月 日前十時
● 長崎行 木曾川丸 十二月十一日前十時出
● 鎮南浦、大連行 信濃川丸 十二月 日後一時出
木曾川丸 十二月 日後四時出

日本郵船株式會社
仁川出帆廣告
電話十番
貨物及船客取扱店
仁川海岸通 郡回漕店 電話三九番
京城南大門通 巴商會 電話三〇六番

● 釜山長崎門司神戸行 山東丸 十二月二十六日後三時出
● 群山、木浦、釜山、門司、神戸、大阪行 浦汐丸 十二月十四日後三時出
第一オハヨ號 十二月廿三日後三時出
● 大連、大沽行 酒田丸 十二月卅一日後一時出
● 大連行 營口丸 十二月十五日前一時出
高砂丸 十二月三十一日後一時出
● 大連、秦皇島行 山東丸 十二月十七日[illegible]
● 鎮南浦、安東縣行 第一オハヨ號 十二月二十日後三時出
浦汐丸 十二月十一日後一時出
● 釜山出帆、元山、城津、清津行 弘濟丸 十二月十一日

[illegible]